

平成31年（2019年）度 環境教育の推進について

越谷市教育委員会

1 越谷市の学校教育における環境教育

(1) 環境教育が求められる社会的動向

環境教育については、世界的な規模で持続可能な開発のための教育 ESD（地球温暖化防止や循環型社会の形成等の課題）及び生物多様性（生物種の絶滅・減少や自然循環の変質等の課題）に関する学習が重視されています。2015年には、国連総会において持続可能な開発目標 SDGs が採択されました。環境教育の充実を図ることは、SDGs の中の、複数の目標達成に貢献するものとなります。

(2) 環境教育の必要性

環境教育については、教育基本法、学校教育法に明記され、学習指導要領では総則に記載されるとともに、小・中学校ともに各教科、道徳、総合的な学習の時間の学習内容に示されています。また、特別活動については、小・中学校ともに環境保全に関する文言はありませんが、これまでも学級活動、児童会活動、生徒会活動、学校行事等において、クリーン活動や自然を大切にする活動を行っています。

また、平成24年10月1日に完全施行された「環境教育等による環境保全の取組の推進に関する法律」では、学校教育における環境教育の充実として、①教育活動における環境配慮の努力義務、②学校教育における環境教育の一層の推進が求められています。

以上のことから、学校教育には環境問題を自らの問題として認識し、持続可能な社会と生物多様性社会の実現に取り組む人材を育成することが期待されており、各学校では指導計画に基づき計画的に実践しなければなりません。

(3) 第2期越谷市教育振興基本計画への位置づけ

基本目標 1 生きる力を育む学校教育を進める

施策の方向 1 自立して生きていくための基礎となる確かな学力を育む

(3) 環境教育の充実

① 自然保護や環境保全活動の推進

各学校における体験学習を通じた自然保護や環境保全活動の充実を図るため、市内各小中学校環境教育主任を対象とした研修会を実施します。

また、地域に根ざした教育活動を展開するため、こしがや環境サポーターとの連携により、市内全小学校（30校）における越谷生物多様性子ども調査を実施します。

② 環境教育における教材の充実と活用の推進

児童生徒や教職員にとって活用しやすい教材を充実させるため、デジタル教材の充実を図り、ホームページ「越谷の環境教育」を整備します。また、児童館、科学技術体験センター、リユースおよびリサイクルプラザ等、各地域の施設における活動や活用事例についても紹介します。

(4) 環境教育推進の充実に向けた方針

- 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動など全教育活動をとおして、横断的、総合的に学習活動を展開することにより、環境や環境問題について知的な理解を図るとともに、実践への意欲を高めます。
- 環境教育で学んだ知識を活用して、学校、家庭、地域における実際の生活の中で、自分の力で実現可能で具体的な行動目標を立て、行動する力を育みます。
- 市内の環境教育関連施設を活用した体験的な環境教育を推進します。
- 環境問題について専門的な知識をもつ人や団体との連携を図り、各学校の環境教育を推進します。

2 平成31年（2019年）度の環境教育の推進について

環境教育をとおしてめざす児童・生徒の姿

- ①身近な環境に進んでかかわり、自然や環境に対して関心がもてる児童・生徒
- ②身近な環境の保全のために自ら進んで行動できる児童・生徒
- ③身近な環境について学び、環境や自然とのかかわりについて理解できる児童・生徒

エコライフ活動

◎児童・生徒によるエコライフ活動を推進します。

【エコ活動の充実】

活動の区分	活動の内容（例）
省エネルギー	エネルギーの使用量削減（電気、水道、ガス など）
省資源・リサイクル	ゴミの減量、ゴミを出さない生活、古紙・アルミ缶・牛乳パック・ペットボトルのふたの回収、給食の食べ残しの削減 など
自然	植物の観察、農業体験、学校ビオトープの観察や管理 など
美化・緑化	植物の栽培や観察、一人一鉢栽培、グリーンカーテン、屋上緑化 など

【市内環境教育関係施設の活用】

- ・リユース、リサイクルプラザを活用した体験学習
- ・児童館ヒマワリの活用と子どもエコクラブ活動

○市内環境団体、企業等との連携

生物多様性調査・学校ビオトープ活用等

◎各学校における環境教育の成果を市全体で繋げます。

※越谷市役所環境政策課との連携

【環境教育研修会】

※環境教育主任を対象に年2回実施

第1回 2019年5月14日（火）
学校における環境教育の推進
市内環境教育施設等の紹介
研究協議

第2回 2020年2月予定
2020年度の環境教育について
研究協議

【越谷生物多様性子ども調査】

- ・学習プログラムを基に小学校30校で調査を実施（専門家による支援2回）
- ・越谷生物多様性子ども調査説明会
第1回 2019年 4月26日（金）
第2回 2019年 8月20日（水）
第3回 2019年10月23日（水）

【学校ビオトープ整備事業】

- ・毎年3校ずつ
- ・整備後の学習支援あり

環境教育資料・デジタル教材

◎環境に対する正しい知識を身に付け、主体的に判断するための適切な情報を提供します。

○環境教育資料「しらこぼと」

- ・越谷市の特色を生かした資料の充実

○「越谷の環境教育」ホームページ

- ・各学校の「特色ある環境教育の取組」をホームページに掲載
- ・「越谷生物多様性子ども調査」ホームページによる調査結果の発信、共有化

○環境教育デジタル教材

- ・「越谷の環境教育（KIKYO）」に、授業用プレゼンテーションを掲載

○環境教育推進プランの見直し

3 「越谷生物多様性子ども調査」について

平成24年度から始まった越谷市独自の指標生物調査です。この調査では、子どもたちが学校やビオトープ周辺のトンボの生息状況を調べ、活動を通して越谷市の環境の現状について知り、調査結果を元に生きものにとってやさしいまちづくりについて考えます。



◆目的

- ① 学校ビオトープや学校周辺における「トンボ」の生息状況を調査し、本市の環境の現状について理解を図ります。
- ② 調査校の調査結果についてホームページを活用して発信し、児童・生徒はもとより保護者や地域住民等に対しても、越谷市のもつ生態系保全機能等への理解促進を図ります。

◆調査方法

- 学習支援プログラムを基に各学校で4回の学習を行います。
※そのうち専門家(委託業者)による学習支援は2回
- 調査は「理科」「総合的な学習の時間」等、各学校の環境教育推進プランに基づき実施します。
- 調査結果は、ホームページに掲載し、各学校や地域に発信し共有化を図ります。
- 簡易観察池等の設置についての材料等は、越谷市教育委員会で準備します。

春

夏

秋

冬

【活動1】 ○越谷市子ども生き物調査(KIKYO)をはじめよう
○ビオトープってな～に
～生き物の気持ちになってみよう～
○トンボの体のつくりを見てみよう

【活動2】 A: ミニビオトープを作ろう
※観察初年度で、ビオトープのない学校で実施
B: ビオトープを観察してみよう(ヤゴ調べ)
※ビオトープ設置校、観察池(プラ舟)設置校で実施

なんでトンボなの？

ぼくたちトンボは、環境の変化を受けやすい場所をすみかにしているんだ。
羽があるから、環境が変わると住みやすい場所を探して移動するんだよ。
種類によって好む場所も違っているんだ。

- ・授業は年間8時間・・・各季節90分(授業2時間)
- ・ビオトープのない(使えない)学校は、観察池(プラ舟)で実施
- ・調査は日常的に実施(児童が見つけたヤゴやトンボを記録ノートに記入)

トンボを調査することで、生息するトンボの種類から、学校周辺の自然環境を知ることができます。さらに多くの種類のトンボを集めるために、どのような環境を作っていたらよいかを考えることができます。

調査実施校

**平成24年度
12校**

大沢小 新方小 荻島小
出羽小 大相模小 川柳小
南越谷小 大沢北小
平方小 西方小
千間台小 城ノ上小

**平成25年度
18校**

平成24年度参加校
+
桜井小 東越谷小
蒲生南小 大袋東小
弥栄小 花田小

**平成26年度
24校**

平成25年度参加校
+
増林小 蒲生第二小
大袋北小 大間野小
宮本小 鷺後小

**平成27年度
30校**

平成26年度参加校
+
越ヶ谷小 大袋小
蒲生小 北越谷小
明正小 桜井南小

3

※毎年6校ずつ参加校を増やしてきました。

4 学校ビオトープ環境整備について

毎年3校ずつ学校ビオトープ環境整備を行う予定です。

(2019年度：大袋東小・千間台小・桜井南小)

- ・多様性生物が生息できるように植物の植え替え、他校からの移植、土の入れ替え等
- ・外来種（越谷の在来種以外の動植物）の駆除
- ・専門家によるビオトープを活用した学習支援

【学校ビオトープ環境整備計画】

	実 施 予 定 校		
2019年度	大袋東小学校	千間台小学校	桜井南小学校
2020年度	新方小学校	増林小学校	城ノ上小学校
2021年度	弥栄小学校	東越谷小学校	南越谷小学校